

私は去年2015年の8月から12月までの4ヶ月間、この大学の留学プログラムにより、アメリカ、ミズーリ州に位置するノースウェストミズーリ州立大学に派遣留学をしました。この大学には現地のアメリカ人だけでなく韓国、中国、インド、ネパール、サウジアラビアから多くの学生が私たちと同じように留学しているため、英語を習得し、アメリカの文化を学んだだけでなく、様々な国の人と交流することにより、文化、考え方の違い、英語の発音や訛りの違いを常を感じることができました。

ミズーリ州立大学において、私たちが受けた授業の内容は主にTOEICクラス、英語基礎・文法、スピーキング・リスニング、リーディング、アメリカ文化でした。英語基礎・文法の授業は、自分たちが今まで学んできた文法に加えその応用、そして場面による使い方、使い分けを学ぶことができ、今まで習ってきたテストのための文法をより実践的なものに変えることができました。スピーキング・リスニングでは、アメリカ史を主に記載された教科書を使い、授業のグループワークの中でそれぞれのアメリカ史における話題について討論をしました。この討論の中で違う国の生徒が持つ意見を感じることができました。リーディングの授業では、授業中に出される教科書の宿題に加え、毎週末に決められた新聞記事を読み、要約し、自分の意見をレポートにまとめて出す宿題と、不定期で出される授業内容に関するレポートがありました。そのため、一週間の課題の量は最初、私にはとても多く感じられ、苦勞しました。

留学に行き、そこで様々な国の人と関わることによって、私は自分が海外への無意識の偏見を多く持っていたことに気づきました。私は留学先で韓国人と中国人と授業を受けるクラスが同じであるということも働き、一緒に行動することが多く、仲良くなりました。正直なところ留学に行く前は、メディアで報道される政治的な記事やニュースもあり、実際に中国や韓国の人達と関わっていないにもかかわらず、彼らに対してあまり良い印象を持っていませんでした。しかし関わってみると今まで自分が抱いていたイメージが偏見であったと分かりました。これはあくまで私のひとつの例であり、この留学を通して私の中で抱き、根拠もなく信じていたイメージや偏見が崩れ、自分で他国の人と関わったことで生まれた経験こそ、私がこのアメリカ留学で得た中で最も価値のあるものであると思います。